

- 松島和久委員長 ただいまより総務文教常任委員会を開会する。
当委員会に付託された議案は、議第61号「水槽付き消防ポンプ自動車の取得について」の1件である。
議案の審査に入る。
議第61号「水槽付き消防ポンプ自動車の取得について」を議題とし、当局の説明を求める。
(当局説明)
- 松島和久委員長 当局の説明に対し質疑・意見のある委員の発言を許す。
- 岡田光正委員 岡田でございます。
2点ほど、今さらと言われるかも知れませんが、消防車、普通、こういうものをのつけるというものを、仕様を作って、そして、それについて幾らになりますかということを出してみえる、注文生産という形でよろしいわけですね。
それで、今回というわけじゃないけど、今まではずっと考えてきた中で、例えば今使っている消防車も下取りだとか、そういったものも含めて予算の中ではいろいろお話はできたと思うんですけども、機械そのものを購入するに当たって、下取りまでも含めた、そういったものも考えた入札になっているのかどうなのか、その辺、教えてもらえますか。
- 石川雅章地域防災課長 今、委員のおっしゃった消防車両の下取り等の関係でございます。
これにつきましては、実際には、こちらのほうの車両につきましては、耐用年数等、たっておりまして、車両本体自体の残存価格はございません。ですので、こちらについては、原則としては、旧車両については更新する際に廃車という形の手続きを取っております。
以上でございます。
- 岡田光正委員 了解です。
もう一点、要は、その中で、今回入札価格は275万円ぐらいの差があるんですけど、こういった内容についての吟味というのは、要は安いから当然落ちちるということなんでしょうけれども、内容についての妥当性だとか、そういったものの評価というのはどのようにやられているんでしょうか。
- 石川雅章地域防災課長 こちらにつきましては、最初に冒頭でお話ししたとおり、仕様書のほうでかなり詳細まで詰めておりますので、今回、差金、確かに単価は出ておりますけれど、条件としては十分合致しているものはこちらのほうは思っております。
- 岡田光正委員 分かりました。
- 深田百合子委員 今まで消防団のとか消防防災センターの消防車も含めて、私は日消さんというのがほとんどではないかなと、記憶がもう、そうだもんですから。一番下に、指名理由して総合的に勘案しということで、今、岡田委員が仕様がどうかという御質

疑がありましたけれども、総合的に勘案した、その中身を教えていただきたいと思いません。

○石川雅章地域防災課長 こちらにつきましては、当然ながら指名競争入札についてはうちのほうの物品の登録をされているところの中から選んでいるわけなんですけれど、その中で一番総合的なもので、消防車両で必要なものはメンテナンスの関係で、特に緊急故障が発生したときの対応ですので、24時間の対応という形で、それができるものとして、実際にはもっと登録業者は多いんですけれど、その中でいろんな条件をクリアした中での13社という形でやっております。そちらのほうが一番総合的な対応という話がありました。

以上です。

○深田百合子委員 分かりました。

こちらは24時間、市内の業者さんということですのですぐに来てもらえるということが総合的の中の一番のメリットだというふうに理解しました。

それから、今回入札が通って定例会が終わった後に、特殊車両になると思いますので、できたものを売っているということはないと思うんですね、スケジュールというのは、いつ頃納車になるのか、そういうのは分かりますか。

○石川雅章地域防災課長 こちらの車両につきましては、2月の中旬に納車を予定しております。当然ながら、先ほどの委員のおっしゃるような形で、特殊な車両ですので、中間では検討等、そういったものはございません。

○深田百合子委員 分かりました。

そうしますと、1年ぐらいかかるということですよ、1つの消防車を。市内に消防団が幾つあって、消防車両が今後も毎年のように替えなきゃいけないのか、どういう状況なのか、その辺が分かりましたら教えてください。

○石川雅章地域防災課長 焼津市内の消防団のほうなんですけど、全部で18分団という形の分団に車両のほうを配備しております。実際にはもう一つ、団の消防本部に1台あるんですけど、それ以外の実際の実践のほうでは18分団という形で、それについてもかなりの台数がありますので、これについては更新計画のほうをうちのほうでつくって年間スケジュールで、次はどの分団のものという形に、そうした計画に基づいて更新のほうを行っております。

○深田百合子委員 分かりました。

今回が1台目でしたっけ、それともその前にもありました、去年とか、その前の。

○石川雅章地域防災課長 ありました。

○深田百合子委員 それじゃ、全部で18分団の皆さんの車両というのが、更新が終わるのはいつ頃になるんですか。

○石川雅章地域防災課長 かなりの台数がございますので、終わりが無いというか、ぐるぐるまわってやるもので、例えば来年は今度は18分団、その次の年は17分団という形で、毎年毎年、一遍に車が集中しないような形でローテーションをかけているという形です。

○深田百合子委員 じゃ、全部ローテーションがかかると、毎年1台だとすると18年かかるということになるんですよ。そうしたらまた最初から戻る。

15年が経過すると買い換えなければいけないというのがあるかと思うんですが、今回、1.5トンの水槽を有する、これは初期消火ができる量だよということなんですが、実際、初期消火というのはどういう状態を指すんですか。小さい。1.5トンがあると思うので。

○石川雅章地域防災課長 おっしゃるとおりだと思うんですけど、本当に、初期消火、火が小さいときに済めばぼやみみたいな形で終わってしまうんですけど、いかに早く火が小さいうちに消火できるかと。今、やっぱり初期消火はそういった形でできておるんですけど、水槽がつくことによって、本来は消火栓からつないでというのに何分かかかるんですけど、場所によっては、狭隘道路という説明があったんですけど、時間がかかる場所もございますので、そういったときに、特に大井川地区については水槽つきのもの、各地域に1台という形で、初期消火という形に消防戦略を組んでいるということでございます。

○深田百合子委員 分かりました。

これから初期消火ができるような1.5トンの水槽の消防車を随時交換して購入していくということになっていくと思うんですが、更新計画に従って。それで、特徴のところで、最新鋭の資機材を装備するということなんですが、具体的にはどういうものなんでしょうか。

○石川雅章地域防災課長 まず最初に、毎年、水槽つきというお話だったんですけど、水槽つきは全部18分団全てが水槽つきじゃないものですから、これについては大井川の3地区だけですので、先ほど言った来年、再来年というのは、そういったものが順番に来ております。

それが1つと、最新鋭の装備という形なんですけれど、これについては車両関係とか、それぞれの資機材というのが15年前と比べて今現在の装備というか、そういったもののお話であって、じゃ、特別にここの車両は常備で消防署にあるようなものに比べてここが優れているとか、そういった意味でのものではなくて、今現在の一番直近の、最新の機材を積んでいますと、そういった意味合いでございます。

○池谷和正委員 深田委員の質疑のところ、日消機械さんが入札のほとんどのという意見で、自分らも今まで報告を受けている中では、トヨタさんであったりとか、いろんなところが入札で落札しているなというのは、今までの経緯では、委員会は別だったんですけど、報告を受けた際には別に日消機械さんだけがというわけじゃないというのは、多分、皆さん、ものによっては全然得意としているメーカーさんもあるだろうしということで、そこのところはちょっと気になったので意見としてあれですけど。

今言った大井川地区に対しての消防車の、廃車というんですか、納車に関しては、仕組みについては分かったんですけど、企業消防団というんですか、今、この中身については大体質疑で分かったんですけど、今後、払い下げの消防車を使って地域の防災力を高めるみたいな形の方向性の話は多分ほかの委員たちも気にはなっていると思うんですよ。

先ほど岡田委員も言っていたように、下取りも込みで、せつかく要は見た目ではまだ新しい、走行距離もまだそこそこののに、僕らも消防団は経験させてもらったので分かるんですけど、正直言って素人が訓練をしながら使うものですから、万全の体制でメンテナンスもしながらというので本当に手がかかる車ではあるのは分かるんですけど、そ

れをさらに、第2に人生じゃないんですけど、次の有効利用という形で、地域の防災力向上のために使う方向性みたいなものがあれば、今、ひとつお聞かせください。お願いします。

- 東出隆之防災部長 ただいまの池谷委員のほうから御質疑のありました、買換えのときの車の使用方法についてでございますが、先ほど地域防災課長から説明しましたとおり、原則は廃車ということになりますけれども、当然、そのほかに有効な利活用というのがあれば検討して、利活用があればそちらのほうにも使っていきたいということは防災部のほうも考えておりますので、よろしく願いいたします。
- 池谷和正委員 同じ会派の皆さんから先ほど休憩のときに、ヤフーなんかで入札にかける、オークションというんですか、出ている地域の消防車もあるみたいな話を聞いたんですけど、皆さんが納得する使い道がもし幾つか選択肢があるんだったら、早めに地域の皆さんにも知ってもらって、取組の大きな1つとして提案していくのも防災の1つかなと思いますので、ぜひよろしく願いします。
- 深田百合子委員 15年経過しても使えるんですか。
- 池谷和正委員 使えますね。
- 深田百合子委員 じゃ、何で計画、買い換える。
- 池谷和正委員 それはやっぱり最新のものですから。
- 深田百合子委員 使えるならいいじゃんという話。
- 東出隆之防災部長 ただいま深田委員のほうからの御意見ですけど、あくまでも15年とかは1つの目安でありまして、この車両は、常時、消火活動の訓練等で使っております。そういった関係で、いろんな機器、エンジン等、消耗も激しいということで、昨年、15年も経過したということから、今回新しいものに買換えということでございます。
- 深田百合子委員 15年経過、15年というと、普通車でも燃費とかは悪くなって、環境的にもよくない状態じゃないですか。消防車だともっとそういうメンテナンスも、もらったはいいけど、じゃ、どこに置くのとか、誰が管理するの、メンテナンスはどうするの、その費用はどこから出るの、いろんな様々な問題が大きいですから、だから、自治会で1つそれを借りても、まず最初に、大井川の皆さんは土地があるからいいかもしれないんですけど。
- 池谷和正委員 企業ですよ、企業。
- 深田百合子委員 企業で。でも、企業こそちゃんとした車両のほうは私は安全に使えると思います。地域で消火活動の訓練をするというのには活用できればそれはいいかなと思うんですが、そういう意味で、ちょっと心配になったもんですからね。
- 池谷和正委員 深田委員の言っていることはごもっともなんですけど、知るより慣れろというんですか、触って覚えるという部分もあって、地域の消防というか、自治会や町内会にもちっちゃなポンプはあるはずなんですよ、消火ポンプの。エンジンがかかるかからないは別ですよ、メンテナンスしているかしていないかでまたあれなんですけど、それが消防車となるとやっぱり管理というのは大変だと思うんですよね。企業でも、今、地域と連動して防災に協力していこうよという動きで、それこそ市長もいろいろ、会社、企業の消防団というのにもすごい力を入れているのは分かるんですけど、実際それをもうやっているよという会社もあるみたいなもんですから、それを僕らもちょっと聞くぐ

らいなものですから、焼津市内の中でちゃんとメンテナンスも自分たちでやれるよという企業さんが出てきて、そうすれば消防団プラス、また企業の消防団とって、どんどん層が厚くなるというので期待をしているという意味で。

そうすると、それじゃ、補助を出したらいいんじゃないかという話がまた違ってきちゃうもので、やっぱり管理もできる、そういう企業さんとタッグを組んでいくというのが、誰でも手を挙げれるというわけじゃなくて。ただ、そのときもやっぱり車両としてもある程度使える車両じゃないと企業さんには渡せないだろうというもの、こっちでもいろいろ考えは企業のことも思って、実は行政の皆さん方も考えていると思うんですけど、ただ、世の中の流れとしてはそういうふうな流れになってきているんじゃないかなと思ったので、さっきの質疑をさせてもらったという。だから、何がなんでも一般の自治会に、普通の自治会にいきなりこの手の消防車を渡しても多分管理もメンテナンスも、お金もないし。

○岡田光正委員 そのための分団があるんだから。

○池谷和正委員 そうそう、そうです。

○松島和久委員長 ありがとうございます。この議案の審査に関するところは出尽くしたかと思えます。

それで、やはり住民の命、市民の命を守るという意味での防災の中では、消防車というのも非常に大事なものだということもよく理解できまして、あとは、個々にまた確認を取っていただければと思います。

質疑・意見を打ち切り、討論を許す。(なし)

◇採決の結果、議第61号「水槽付き消防ポンプ自動車の取得について」は全会一致、可決すべきものと決定

○松島和久委員長 以上で当委員会に付託されていた議案の審査は終了した。

これで総務文教常任委員会を閉会とする。

閉会（10：20）